

わんぱく 集まれ！淡路でドンドコ文化交流プロジェクト



四季変化に富み、自然に恵まれた日本には様々な伝統文化、芸能が存在します。今回は、その日本国土の起源ともいわれる淡路島を訪れ、自然や神を崇める神事から、舞台芸能へ発展させた淡路人形浄瑠璃の世界を大阪の子どもたちが体験し、新しいものだけに価値を見出すのではなく、古くから守られているものを見直し、大切に作る心を養います。同時に、淡路島に住む子どもたちと、大阪の和太鼓と南淡路の芸能で交流し、互いの郷土文化を理解し、文化発信できるような力を養うことも目的とします。

国指定重要無形民俗文化財

淡路人形浄瑠璃

500年の歴史を誇り、国指定重要無形民俗文化財でもある淡路人形芝居の由来は諸説ありますが、鎌倉時代、淡路島に大阪四天王寺より舞楽など神事を生業とする楽人が移り住み、その後西宮の戎神社に属したエビスカキから人形操りの人気が高かったため神事を人形操りで行うようになったと考えられています。

漁の安全と恵みを祈るものとして、また、家、土地、船を守り、神を讃える神聖な季節の行事として定着し、昭和初期までは、門付けの三番叟や戎舞が淡路の各家を回り神棚の前で幸せを祈っていました。

最盛期の18世紀初めには40以上の座があり、人形役者が千人もあり、淡路島のみならず日本全国を巡業し、各地に人形芝居を伝えました。大阪に出て「文楽」を創始した植村文楽軒も淡路出身です。文楽と異なり野掛け舞台だったため大きな人形、大きな動作となり、時代物を得意とし、早替りや道具返し、衣装山など淡路独特の演出や演技も派手でケレン味が尊ばれ、気軽に楽しめるという人形芝居本来の雰囲気を残した外題も多く、女性の座員も活躍する舞台は華やかです。

美術品としても価値のある人形を三人で遣い、情感溢れる語りと重々しく響く三味線による伴奏が相まった俳優が演じる演劇以上に喜怒哀楽溢れる舞台を演じます。

(淡路人形座HP 抜粋、一部編集)

申し込み

①メール npo.gamu@nifty.com

①～⑧の必要事項を記入し送信してください

②FAX 072-829-4461

本用紙、または任意の用紙に①～⑧の必要事項を記入し送信してください

簡単便利なツアー専用
申し込みフォーマット
をご利用ください➡➡



【記載項目】

- ①氏名(ふりがな) ②性別 ③生年月日 ④学年 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦メールアドレス
⑧お子様のみ参加の場合は保護者氏名、連絡先

ふりがな	男 ・ 女	緊急連絡先(お子様のみ参加の保護者連絡先)	
氏名		氏 名	_____
住所 〒		TEL	_____
生年月日 昭和 平成 年 月 日(e-mail	_____
(学生の方は) 学年		その他連絡事項	
小 ・ 中 ・ 高 ・ 大 年生			